

「用」を伴う日中同形動詞について

— 「使用／利用／運用」と “使用／利用／运用” を例に —

On Sino-Japanese Homomorphic Verbs with 'Yō':

A Case Study of 'Shiyō/Riyō/Unyō' in Japanese and 'Shiyong/Liyong/Yunyong' in Chinese

朱 薇娜[†]

Weina ZHU[†]

Abstract This paper examines the similarities and differences in semantics and usage of Sino-Japanese homomorphic verbs with the semantic factor “use” (用). Specifically, this study focuses on six verbs: the Japanese verbs “Shiyō” (使用), “Riyō” (利用), and “Unyō” (運用), and their Chinese counterparts “Shiyong” (使用), “Liyong” (利用) and “Yunyong” (运用). By analyzing corpus data and generating word clouds of frequently collocating nouns, the study compares and contrasts these verbs. In the semantic and usage analysis, fundamental concepts from cognitive semantics, such as “prototype” and “semantic frame,” are utilized to capture the similarities and differences among the six verbs as a whole. Specifically, both “Shiyō” (使用) in Japanese and “Shiyong” (使用) in Chinese typically involve event types related to <concrete objects used as tools>. Both “Riyō” (利用) and “Liyong” (利用) can appear in contexts with negative connotations. Additionally, nouns denoting facilities and transportation, which inherently signify <functionality>, generally do not collocate with “Shiyō” (使用) but rather with “Riyō” (利用). This tendency can be attributed to the fact that such nouns can be perceived as <services>, and <utilization of services> is a typical event type unique to “Riyō” (利用). On the other hand, “Unyō” (運用) and “Yunyong” (运用) exhibit notable differences. The typical event type associated with “Unyō” (運用) focuses on the management and operation of the object itself, whereas “Yunyong” (运用) shares similarities with “Shiyong” (使用) and “Liyong” (利用) as all three verbs center around <achieving a purpose>. Moreover, “Yunyong” (运用) can indicate application in other domains, which is further evidenced by its ability to function as a ditransitive verb.

1. はじめに

本稿は日本語の「使用（する）」「利用（する）」「運用（する）」、中国語の“使用”“利用”“运用”のような、「用」を伴う日中同形動詞を考察対象とする。形式を揃えるために、以下、「使用（する）」「利用（する）」「運用（する）」を単に「使用」「利用」「運用」と表記する。さらに、認知意味論の知見を踏まえ、辞書における意味記述や共起する名詞の異同を比較することで、フレー

ムの観点から、各日中同形動詞の意味用法の共通点と相違点について統一的な説明することを目指す。

本稿の構成は次の通りである。まず第2節では、先行研究を概観する。次に第3節では、本稿で援用する認知意味論の概念を確認し、コーパス調査の手法や考察の方法を説明する。続く第4節では、各動詞の辞書における意味記述と用例を確認した上で、コーパス調査の結果を示し、日中同形動詞の意味用法の共通点と相違点について考察する。最後に第5節では、以上の考察から得られた結論を述べる。

[†] 愛知工業大学 基礎教育センター（豊田市）

2. 先行研究

日中同形語に関する先行研究は、数多くの知見が蓄積されているが(大河内 1992, 翟 2000, 筆者 2020, 吉 2022 など)、「使用」「利用」「使用」「利用」等を研究対象とする論文は見当たらなかった。辞書類では、「使用」と「利用」の使い分けについて次のように記述されている(一部抜粋)。

利用と使用を使い分ける際には、対象となる物や人の役割を踏まえなければならない。本来の役割と異なる場面で対象物が用いられるなら「利用」が正しいといえる。逆に、本来の役割通りの用いられ方をするのであれば、「使用」が正しい(e.g. 授業で辞書を使用する Vs. 辞書を利用して)。ただし、設備や建物の機能を目的のために役立てる際には、「利用する」とすることが一般的である。たとえば、娯楽施設に行ったり、アトラクションや遊具で遊んだりするときは「利用」があてはまる。

(Weblio オンライン辞書。下線部は筆者による。)

検索日 2024 年 8 月 8 日)

つまり、〈本来の目的・役割〉が重要な判断要素となり、「使用」と「利用」のどちらを用いるかは、この要素によって決まる。一方、設備や施設等は、本来の目的に沿って利用されているにも関わらず、「使用」とは共起せず、「利用」と共起するという興味深い言語事実が確認されている。

本稿では、以上のような言語現象を手がかりに、「使用／利用／運用」および“使用／利用／运用”のような「用」を含む日中同形動詞について、その共起関係や意味的な違いを考察し、日本語・中国語それぞれの学習者にとって紛らわしい同形語の区別を明確にすることで、第二言語教育の現場に貢献することを目的とする。

3. 援用する認知意味論の諸概念と調査方法

3・1 援用する認知意味論の諸概念について

本節では、本稿で援用する認知意味論の諸概念について確認する。

まずは、カテゴリ化とプロトタイプについて見る。本稿では、各動詞と共起する名詞グループを分類するために、カテゴリ化とプロトタイプの理論を援用する。人間が世界を認識する過程は、カテゴリ化の過程であると言っても過言ではない。カテゴリ化する際に、同じカテゴリに属するメンバーは、その典型性に応じて、中心的なメンバー、いわゆるプロトタイプもあれば、周辺のメンバーもある。プロトタイプの代表例としてしばしば取り上げられるのが〈鳥〉のカテゴリであり、アメリカの

大学生を対象とした心理学的な実験では、コマツグミやスズメなどがプロトタイプとされ、飛べないダチョウやペンギンは周辺のメンバーと位置付けられている(Barsalou 1985 など)。同様に、本稿では、共起頻度が上位に来る語が典型的なものであり、プロトタイプの存在として位置付ける。さらに動詞とプロトタイプである共起語がともに喚起する事象は、代表性を持ち、母語話者にとって想起しやすい事象であるため、これらは、典型的な事象、即ちプロトタイプの事象と見なす。

次に、フレーム意味論について確認する。フレーム意味論では、「語をはじめとする言語表現はフレームを喚起し、その意味はフレームを背景にして初めて理解される」という立場を取る(野村 2013: 318)。動詞が取り得る項は、フレームのコアな構成要素と見なし、さらに、関連事象等の背景知識もフレームに取り込む。例えば、「泣く」のフレームには、中心的事象として【泣く人】が【目】から【涙】を出すとし、関連事象として、「悲しみや嬉しさ」といった理由、「訴えや同情」といった目的、「静かにや激しく」といった様態、「目が腫れたり、他人が影響を受けたり」といった結果・影響等が存在するとされている(松本・陳 2018)。本稿では、同様の立場を取り、日中同形動詞の中心的な項構造のみならず、その目的や結果などの関連事象についても考察する。

3・2 調査方法

各動詞を考察する際に、おおむね以下の手順に従って行った。

まずは辞書による意味記述を確認した。日本語の辞書として『大辞林』(第四版)と『デジタル大辞泉』(検索日 2024 年 8 月 8 日)、中国語の辞書として《现代汉语词典》(第七版)を使用した。辞書の意味記述に基づき、各動詞の主な情報を収集した。

次にコーパスを用いて各動詞のコロケーション情報や構文情報を網羅的に収集した。日本語のコーパスとして、NINJAL-LWP for TWC(以下、NLT と略称する)を利用した(検索期間 2024 年 8 月 8 日～2024 年 8 月 31 日)。NLT は、日本語のウェブサイトから収集して構築した約 11 億語のコーパスである筑波ウェブコーパスを検索するためのツールで、共起語情報を網羅的に表示することができる。中国語のコーパスとして、北京語言大学が構築した総字数が約 150 億字規模に達するオンラインコーパス(以下、BCC と略称する)を利用した(検索期間 2024 年 8 月 8 日～2024 年 8 月 31 日)。BCC には共起語の統計機能が備わっているが、NLT と比べて精度が劣るため、人手による選別が必要である。具体的には、BCC の多領域コーパス(均衡コーパス)を用い、「運用/V*N」のような検索式で例文を検索した(ここで、「/V」は動詞として用いられることを、「*」は任意の文字を、「N」は V と共起する名詞を表す。)。その検索結果を

「用」を伴う日中同形動詞について

統計機能でリストアップし、共起語の一覧を作成した。その後、人手により不要な語を排除し、上位語を確定した。さらに、各動詞が喚起するプロトタイプの事象を比較するために、共起語としての対象名詞の上位語 20 語を基にワードクラウドを作成した¹⁾。ワードクラウドでは、出現頻度が高い語が大きく表示され、逆に出現頻度が低い語は小さく表示される。この視覚的な表示により、対象名詞の使用傾向が一目瞭然になる。

4. 考察

4・1 「使用」と“使用”について

本節では、「使用」と“使用”の共通点と相違点について、3.2 の調査方法を踏まえて考察する。

4・1・1 辞書による意味記述

各辞書の意味記述を表 1 に示す。

表 1 「使用」と“使用”の意味記述

	辞書	意味記述及び用例
使用	『大辞林』 (第四版)	使うこと。用いること。「午前中第一会議室を使用する」(p.1318)
	『デジタル大辞泉』	人や物を使うこと。「会議室を使用するには許可がいる」「ストロボの使用は御遠慮ください」
使用	《現代汉语词典》 (第七版)	使人员、器物、资金等为某种目的服务：使用干部 合理使用资金 (p.1624) (訳：人、物、資金などをなんらかの目的に役立たせること。「幹部を使用する」「資金を合理的に使用する」)

表 1 に示されるように、「使用」の場合、和語の「使う」「用いる」に類似した意味を持ち、共起語である対象名詞として、人や、物を表す「ストロボ」、場所を表す「会議室」が挙げられている。一方、“使用”の場合、〈何らかの目的に〉〈役に立たせる〉という意味が記述されており、共起語である対象名詞として、人を表す“幹部”（「幹部」）、物、資金が挙げられている。これらの情報をまとめると、「使用」および“使用”のいずれも、人やものを対象とし、“使用”は〈何らかの目的〉に関連していることが分かる。

4・1・2 コーパス調査の結果および上位語のワードクラウド

より多くのコロケーション情報および構文情報を収集するために、コーパス調査を行った。その結果、よく共起する対象名詞の上位語として、「使用」では、「もの」(2950)「(消臭/除草) 剤」(2036)「薬」(1319)「機能」(986)「水」(2950)等の順に²⁾、“使用”では、“技術”（「技術」）(1228)“方法”（「方法」）(1152)“药物”（「薬物」）(1091)“产品”（「製品」）(912)“材料”（「材料」）(854)等の順に並んでいる。

それぞれの動詞とよく共起する上位語 20 語を、次のようなワードクラウドを作成した。



図 1 「使用」の上位 20 語のワードクラウド



図 2 “使用”の上位 20 語のワードクラウド

「使用」と共起する対象名詞の上位語 20 語については、意味特徴に応じて以下のようにカテゴリ化することができる。具体的には、{ (消臭・除草) 剤/薬/水/ (集成・断熱) 材/ (コピー・掃除) 機/ (浄水・加湿) 器/製品/機器/装置/カード} のような〈具体物〉を表すもの、{機能/技術} のような〈抽象物〉を表すものの、〈抽象物〉のサブカテゴリとして {情報/システム/ソフト/データ/コマンド} のような〈情報技術関連〉を表すもの、「(労働・未成年) 者」のような〈人〉を表すもの、そして「もの」や「素材」(e.g. 天然素材 vs. アイディアの素材) のように、文脈によって〈具体物〉か〈抽象物〉かが決まるものが挙げられる。

これに対して、“使用”と共起する対象名詞の上位語 20 語については、意味特徴に応じて以下のようにカテゴリ化することができる。具体的には、〈抽象物〉のサブカテゴリとして {方法（「方法」）/手段（「手段」）/方式（「方式」）} のような〈方法・手段〉を表すものの、{药物（「薬物」）/产品（「製品」）/材料（「材料」）/设备（「設備」）/卡（「カード」）/ (抗酸化・脱毛) 剂（「酸化防止・脱毛」剂）/水（「水」）/水泥（「セメント」）} のような〈具体物〉を表すものの、〈抽象物〉のサブカテゴリとして {系统（「システム」）/软件（「ソフトウェア」）/网络（「ネットワーク」）} のような〈情報技術関連〉を表すもの、{技

¹⁾ ワードクラウドは、筆者が Excel で作成した頻度表を基に Python を使って作成した。

²⁾ 実質的な意味を持つ言葉を収集するために、コーパスの共起語リストから「形態素辞書に載って

いない固有名詞を表す【一般】」や、「これ」「それ」のような指示詞などを除外した。ほかの語も同様である。また、() に入っている数値は、ヒット数を表す。以下同様。

術（「技術」）／语言（「言語」）／功能（「機能」）／商標（「商標」）} のような〈抽象物〉を表すもの、そして {武器（「武器」）や工具（「工具」）} のように、文脈によって〈具体物〉か〈抽象物〉かが決まるものが挙げられる。また、上記の〈抽象物〉のうち、{技術（「技術」）／语言（「言語」）／商標（「商標」）} は〈人の知的産物〉を表すものとしてサブカテゴリ化できる。

4・1・3 分析

以上の調査結果に基づき、「使用」「使用」の共通点および相違点について考察する。

I. プロトタイプとしての事象とそのフレーム

「使用」の場合、〈道具としての具体物の使用〉を表す事象が最も多く、プロトタイプとしての事象であると考えられる。そのフレームに〈手による操作〉がデフォルトの行為として想定できる。なお、〈手による操作〉は通常言語化されず、その関連事象としてフレームに含まれている。

一方、「使用」は、「使用」と同様に〈道具としての具体物〉とよく共起するが、上位語の 1 位が〈抽象物〉である「技術」（「技術」）、上位語の 2 位が〈方法・手段〉である「方法」（「方法」）ということから、「使用」のプロトタイプ的な事象のフレームには、〈何かを使用して特定の目的や目標を達成する〉という要素が含まれていると考えられる。特に、「技術」（「技術」）を使用することで、問題を解決したり成果を得たりするという目標が想定されやすく、また方法は、そもそも目的を遂げるための手段を意味している。このように、「使用」のプロトタイプ的な事象のフレームには、〈目的達成〉が中心的な要素として含まれていると考えられる。もちろん、「使用」のフレームには、関連事象として〈目的達成〉が含まれるが、「使用」は「使用」と比較すると、〈目的達成〉が焦点化され、前景に出やすいと言える。

〈情報技術関連のものの使用〉および〈技術・機能の使用〉において、両語は一致しており、具体的な〈道具〉や〈手段〉が介在すると考えられる。

また、上位語 20 語には含まれていないものの、「使用」の共起語である人を表す「（労働・未成年）者」は「使用」とも共起可能である。さらに、「使用」の共起語に含まれる「方法」「手段」「方式」のような〈方法・手段〉を表す語、「语言」（「言語」）「商標」（「商標」）のような語は、「使用」とも共起可能である。

II. 共通点および相違点のまとめ

以上の考察から、「使用」および「使用」は意味が類似しており、共起語も多くの点で一致していることが確認できる。

一方、相違点については、「使用」のプロトタイプ的な事象のフレームには、〈目的達成〉が中心的な要素として

含まれる点が挙げられる。これに対して、「使用」のフレームには、〈目的達成〉という要素が関連事象として含まれているが、必ずしも中心的な要素ではない場合もある。

4・2 「使用」と「使用」について

本節では、「利用」と「利用」の共通点と相違点について、3.2 の調査方法を踏まえて考察する。

4・2・1 辞書による意味記述

各辞書の意味記述を表 2 に示す。

表 2 「利用」と「利用」の意味記述

	辞書	意味記述及び用例
利用	『大辞林』 (第四版)	①物の機能・利点を生かして用いること。また、単に用いること。 「出張に新幹線を利用する」「火力を利用する」 「臨時窓口をご利用ください」「廃物利用」 ②自分の利益になるようにうまく使うこと。手段・方便として用いること。「機会を利用する」「地位を利用する」「縁故関係を利用して出世する」 (p.2884-2885)
	『デジタル大辞典』	1 (物の機能・性能を十分に生かして) 役立つようにうまく使うこと。また、使って役に立たせること。「遊休地を利用する」「いつも地下鉄を利用する」「廃物利用」「無線 LAN が利用できる喫茶店」「年間 500 万人が利用するサイト」 2 (ある目的を達するために) 便宜的な手段として使うこと。方便にすること。「特権を利用する」「立場を利用した卑劣な行為」「親愛の情を利用した詐欺事件」
利用	《現代汉语词典》 (第七版)	①使事物或人发挥效能：废物利用 利用当地的有利条件发展畜牧业。 ②用手段使人或事物为自己服务：互相利用 (p.805) (訳：① 物や人にその機能・役割を発揮させること：廃物利用 地元の有利な条件を利用して畜産業を発展させる。 ② 手段を使って人や物を自分のために役立てること：お互いに利用し合う)

表 2 に示されるように、「利用」と「利用」はどちらも二つの意味に分けられており、意味 2 においては、好ましくない評価が含まれている点で両語が一致している。意味 1 の記述では、「利用」は「物の機能・利点・性能を生かして」使うことであり、「使用」と比較すると、物の持つ機能や利点、性能を生かすという意味が強調されている。一方、「利用」は「物や人にその機能・役割を発揮させること」という意味で、「使用」の「人、物、資金などをなんらかの目的に役立たせること」という意味に近い。

また、共起語に関する情報では、「利用」は、公共交通機関を表す「新幹線」「地下鉄」、施設を表す「臨時窓口」「喫茶店」「遊休地」、具体物を表す「廃物」、抽象物を表す「火力」「機会」「地位」「縁故関係」「特権」「立場」「親愛の情」、そして情報技術関連の「無線 LAN」「サイト」が挙げられている。一方、「利用」は、具体物を表す「废物」（「廃物」）、抽象物を表す「条件」（「条件」）が共起語として挙げられている。

これらの情報をまとめると、「利用」と「利用」は「方便にすること」のような好ましくない評価を含む意味を持つ点で共通している。また、辞書に挙げられている〈公共交通機関〉や〈施設〉と共起する「利用」は、特徴的である。

4・2・2 コーパス調査の結果および上位語のワー

ドクラウド

より多くのコロケーション情報および構文情報を収集するために、コーパス調査を行った。その結果、よく共起する対象名詞の上位語として、「利用」では、「サービス」(9063)「情報」(3990)「制度」(3877)「インターネット」(2596)「システム」(2421)等の順に、「利用」では、「資源」(「資源」)(6132)「時間」(「時間」)(4730)「优势」(「優位性」)(2917)「技术」(「技術」)(2614)「条件」(「条件」)(2337)等の順に並んでいる。

それぞれの動詞とよく共起する上位語 20 語を、次のようなワードクラウドを作成した。

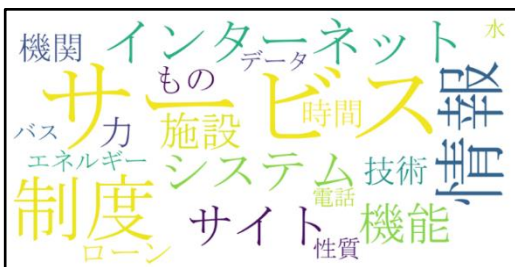


図3「利用」の上位20語のワードクラウド



図4「利用」の上位20語のワードクラウド

「利用」と共起する対象名詞の上位語 20 語については、意味特徴に応じて以下のようにカテゴリ化することができる。具体的には、{制度/機能/力/技術/ローン/時間/エネルギー/性質}のような〈抽象物〉を表すもの、{サービス/施設/機関/バス}のような〈サービス関連〉を表すもの、{水/電話}のような〈具体物〉を表すもの、〈具体物〉のサブカテゴリとして{情報/インターネット/システム/サイト/データ}のような〈情報技術関連〉を表すもの、そして「もの」のように、文脈によって〈具体物〉か〈抽象物〉かが決まるものが挙げられる。

これに対して、「利用」と共起する対象名詞の上位語 20 語については、意味特徴に応じて以下のようにカテゴリ化することができる。具体的には、{資源(「資源」)/時間(「時間」)/优势(「優位性」)/技术(「技術」)/条件(「条件」)/机会(「機会」)/问题(「問題」)/资金(「資金」)/市场(「市場」)/力量(「力」)/政策(「政策」)/经验(「経験」)/关系(「関係」)}のような〈抽象物〉を表すもの、〈具体物〉のサブカテ

ゴリとして{手段(「手段」)/形式(「形式」)/方法(「方法」)/}のような〈方法・手段〉を表すもの、{设备(「設備」)/土地(「土地」)/原料(「原料」)}のような〈具体物〉を表すもの、そして「工具(「道具」)」のように、文脈によって〈具体物〉か〈抽象物〉かが決まるものが挙げられる。

4・2・3 分析

以上の調査結果に基づき、「利用」「利用」の共通点および相違点について考察する。

I. プロトタイプとしての事象とそのフレーム

「利用」は、様々な抽象名詞と共起し、その中で「サービス」が最も多く、〈サービスの利用〉はプロトタイプ的な事象の一つであると考えられる。そのフレームには、コアな構成要素として、【サービスの提供側】【サービスの利用側】【サービス】が考えられる。また、上位の共起語に含まれる{施設/機関/バス}などは、〈サービス関連〉のものであり、プロトタイプ的な事象として位置付けられる。具体的な例を次に示す。

- (1) 学生はすべての施設を24時間利用することが可能です。(NLT)

(中訳：学生可以24小时使用所有设施。)

例(1)では、「学生」は【サービスの利用側】、「施設」は【サービス】、そして言語化されていないが「大学」は【サービスの提供側】として想定できる。この場合、中国語では、「利用」よりも、「使用」のほうが自然である。

さらに、次のような「公共交通機関」や「エレベーター」「コンビニ」など、「サービス」として見なされる様々な例を通して、「利用」と「利用」の対応関係を見てみる。

- (3) 花火の来場は公共交通機関を利用しましょう！(NLT)

(中訳：请使用/乘坐公共交通工具前来观看烟花！)

- (4) 子供一人でエレベーターを利用させる時にも注意が必要。(NLT)

(中訳：让孩子独自一人使用/坐电梯时也要小心。)

- (5) 高齢者は若年層ほどコンビニを頻繁に利用することはない。(NLT)

(中訳：老年人不像年轻人那样经常使用/去便利店。)

以上の訳文に示されるように、〈サービスの利用〉に対応する中国語の表現として、「利用」よりも、「使用」のほうが自然であり、また「乗物」の場合には「乘坐」(「乗る」)、「施設」の場合には「去」(「行く」)といった動詞にも対応できる。

一方、「利用」の場合、次の例(6)(7)に示されるように、本来の用途と異なる文脈において容認度が上がる。

- (6) 他们利用原有的设施、场地，举办各种培训班、展览会，开辟娱乐场所，用所得收入，补充事业

費的不足。(BCC)

(日訳：彼らは既存の施設や会場を利用して、さまざまな研修や展示会を開催し、娯楽施設を開設し、得た収入で事業費の不足を補填する。)

- (7) 犯罪集団利用那家便利店进行地下交易。(作例)
(日訳：犯罪組織がそのコンビニを利用して地下取引を行っていた)

この点について、2 節の先行研究で述べた「施設」と「使用」「利用」の共起関係に反する様相を呈し、興味深い。つまり、中国語では、本来の用途を逸脱した場合には「利用」と共起し、本来の用途に沿った場合には「使用」や移動動詞の「去」などと共起する傾向がある。(サービスの利用)を〈ものの利用〉と区別し、「利用」特有のプロトタイプの事象として位置付けることで、先行研究で指摘された問題点に対する説明が成り立つと考えられる。

また、〈ものの機能・利点・性能を生かす〉ことは、「利用」および「利用」に共通するプロトタイプの事象であると考えられる。両語の上位語 20 語には現れていないものの、それぞれの共起語が互いの動詞と共起できる。例えば、「利用」の上位語として挙げられた「問題」は、次の例 (8) (9) に示されるように、「利用」とも共起可能で、好ましくない評価を表す点で両語は一致している。

- (8) 苏联在第三世界特别是亚非地区，利用一些历史上遗留下来的问题，挑动冲突，……(BCC)
(日訳：ソ連は第三世界、特にアジアとアフリカの地域で、歴史的に残された問題を利用して紛争を引き起こした。)
- (9) 領土問題を利用すれば、民族対立は焚き付けると、すぐに燃え上がる。(NLT)
(中訳：如果利用领土问题煽动民族对立，很快就会激化。)

なお、「利用」も「使用」と同様に、上位語に{手段(「手段」)／形式(「形式」)／方法(「方法」)／}のような〈方法・手段〉を表すものが含まれ、〈手段の利用〉という事象のフレームには、〈目的達成〉が中心的事象としてそのフレームに含まれていると考えられる。

II. 共通点および相違点のまとめ

以上の考察を踏まえると、「利用」「利用」は、どちらも〈ものの機能・利点・性能を生かす〉ことを表す点で共通している。

一方、相違点としては、「利用」には〈サービスの利用〉というプロトタイプの事象が存在する点が挙げられる。この場合、「利用」と共起する際には、本来の用途を逸脱する文脈に置かれることが多い。本来の用途に沿って利用する場合に、「利用」の代わりに、〈場所性〉をもつ施設においては「使用」や移動動詞である「去」(「行く」)が用いられ、交通機関などの乗物の場合には「使

用」や「乘坐」(「乗る」)といった語と共起することが特徴的である。

4・3 「運用」と「运用」について

本節では、「運用」と「运用」の共通点と相違点について、3.2 の調査方法を踏まえて考察する。

4・3・1 辞書による意味記述

各辞書の意味記述を表 3 に示す。

表 3 「運用」と「运用」の意味記述

	辞書	意味記述及び用例
運用	『大辞林』(第四版)	①物の機能を生かして用いること。活用。 「法の運用をめぐる論争する」 ②金銭を利殖などの目的のために他の財産形態に変えること。 「財産を運用する」 ③運転。特に、機軸。 (p.278)
	『デジタル大辞泉』	1 そのものもつ機能を生かして用いること。活用。 「法規の運用を検討する」 2 自衛隊で、行動の意で使う。「陸海空すべての部隊運用の権限が新設された統合幕僚監部へ移った」
运用	『現代汉语词典』(第七版)	根据事物的特性加以利用：运用自如／灵活运用 (p.1624) (訳：事物の特性に応じて利用すること。 「自由に運用する」「柔軟に運用する」)

表 3 に示されるように、「運用」と「运用」は、どちらも「ものの機能や特性を生かして活用する」という意味を共有している。なお、「運用」に関しては、『大辞林』の意味 3 と『デジタル大辞泉』の意味 2 が特定の領域で使われる用法であり、「运用」とは対応するものではないため、本稿では『大辞林』の意味 1、2 および『デジタル大辞泉』の意味 1 に焦点を当てて考察する。

また、共起語に関する情報では、「運用」は、法律・制度を表す「法」「法規」、資金を表す「財産」が挙げられている。一方、「运用」は、辞書に対象名詞としての共起語の情報が載っていない。

4・3・2 コーパス調査の結果および上位語のワードクラウド

より多くのコロケーション情報および構文情報を収集するために、コーパス調査を行った。その結果、よく共起する対象名詞の上位語として、「運用」では、「システム」(400)「資金」(354)「資産」(298)「制度」(249)「お金」(138)等の順に、「运用」は、「手段」(「手段」)(1761)「方法」(「方法」)(1495)「技術」(「技術」)(1202)「理论」(「理論」)(765)「知识」(「知識」)(571)等の順に並んでいる。

それぞれの動詞とよく共起する上位語 20 語を、次のようなワードクラウドを作成した。



図 5 「運用」の上位 20 語のワードクラウド

(日訳: 2000 年、米国は DNA 鑑定技術を利用して死刑執行を待つ 400 人の受刑者を再調査し、86 人が無実であることが判明した。)

- (15) 从学术角度来看, 作者在研究过程中, 运用不同学科的理论分析制约西藏教育发展的各种复杂因素。(BCC)

(日訳: 学術的な観点から見ると、著者は研究の過程でさまざまな分野の理論を使用して、チベットにおける教育の発展を制限するさまざまな複雑な要因を分析した。)

さらに、“运用”は、次のような例 (16) に示すように、三項動詞として用いられ、「使用」や“使用”などの他の五つの動詞とは異なり、「適用」や「応用」「适用」「应用」に類似した構文を取ることができる。

- (16) 把知识运用于实践, 离不开思考。(BCC)

(日訳: 知識を実践に应用するには、思考が欠かせない。)

II. 共通点および相違点のまとめ

以上の考察を踏まえて、「運用」と“运用”の違いが顕著であることが分かる。両語はどちらも主に抽象物と共起するが、「運用」はその抽象物自体に焦点が当たるのに対し、“运用”はその抽象物を生かして特定の目的を達成することや他の領域に应用することを強調している。この違いは、“运用”が三項動詞として用いられる点からも裏付けられている。加えて、両語が一致する事象として〈資金の運用〉が挙げられるが、“运用資金”(「資金を運用する」)においては、資金の管理にとどまらず、投資などの他の領域での活用を含意することに起因していると考えられる。

5. まとめ

以上の考察から得られた結論を次のようにまとめる。

- ① 「使用」および“使用”はいずれも〈道具としての具体物〉とよく共起し、共起語も多くの点で一致している。
- ② 〈サービスの利用〉は、「利用」特有のプロトタイプ的な事象として位置付けることができる。中国語では、本来の用途を逸脱した場合には“利用”と共起し、本来の用途に沿った場合には“使用”や移動動詞である“去”などと共起する傾向がある。
- ③ 「運用」と“运用”の違いが顕著であり、「運用」はその抽象物自体に焦点が当たるのに対し、“运用”はその抽象物を生かして特定の目的を達成することや他の領域に应用することを強調している。
- ④ “使用/利用/运用”は〈目的達成〉が中心的要素としてフレームに含まれている。一方、「使用/利

用/運用」のフレームには、〈目的達成〉という要素が関連事象として含まれるものの、必ずしも中心的な要素ではない場合もある。そのため、“使用/利用/運用”においては、これらの動詞間でより強い意味の類似性が感じられる。

今後、本稿で明らかになった傾向が、ほかの「用」を伴う動詞にも当てはまるかを検討する。また、「用」を伴う日中同形動詞の全体像の解明を今後の課題とする。

参考文献

【日本語文献】

- 大河内康憲.1992.「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』東京:くろしお出版 pp.179-215.
- 朱薇娜.2020.「コーパスに基づく日中同形同義動詞のコロケーションについて:「縮小」「缩小」等を例に」『日中言語対照研究論集』(22):1-15.
- 野村益寛.2013.「フレーム」辻幸夫(編)『新編認知言語学キーワード事典』.東京:研究社 p.318.
- 吉甜.2022.「動補関係の日中同形語の相違一目的語の使用を中心に」『日中言語対照研究論集』(24):1-15.
- 松本曜・陳奕廷.2018.「「泣く」一複合語を手がかりとしたフレーム意味論的分析一」『神戸言語学論叢』(11):50-57.

【中国語文献】

- 翟东娜.2000.〈浅析汉日同形词的褒贬色彩与社会文化因素〉《日语学习与研究》(2):32-35.

【英語文献】

- Barsalou, Lawrence W. 1985. Ideal, central tendency, and frequency of instantiation as determinants of graded structure in categories. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition* 11: 629-654.

【辞書】

- 『大辞林』(第四版)三省堂 2019 年
- 『デジタル大辞泉』小学館
- 《现代汉语词典》(第七版)商务印书馆 2016 年
- 『Weblio 国語辞典』(オンライン辞書)
<https://www.weblio.jp/>

【用例出典: コーパス・検索エンジン】

- NLB (BCCWJ オンライン検索システム)
<http://nlb.ninjal.ac.jp/>
- BCC (北京語言大学が構築した中国語コーパス)
<http://bcc.blcu.edu.cn/>

(受理 令和 7 年 3 月 19 日)